

オハイオ州ウッド郡におけるインターモーダル輸送の事業機会について

ウッド郡経済開発委員会は、CSXトランスポートーション社が開発した最新のオハイオ北西部インターモーダル輸送拠点 (Northwest Ohio Intermodal Hub) の南側にオハイオ州道18号をはさんで位置する1000エーカー (約4平方キロメートル) を越える土地を販売しております。1億7500万ドルをかけて建設されたこの輸送拠点は、CSX社が携わる8億4200万ドルのナショナル・ゲートウェー計画の重要な一部です。この計画により、アメリカ東部と西部の両港湾 (西海岸からはシカゴ経由) から二段重ねのコンテナを積載したCSXの列車を運行し、オハイオ州ウッド郡のノース・ボルチモア市近郊の施設で、極めて効率の良いHans Kuenz社のクレーンを用いて荷降ろしをすることが可能となります。このハブからはさらに鉄道経由で東海岸側の目的地へ、または75号州間高速道路を経由してトラック輸送可能な目的地へとコンテナを運送することができます。

ヘンリー郡区評議会はこの区域を「産業地区計画地」に指定し、立地計画審査を受ける国際物流ロジスティクス計画地として開発できるようにしました。また、ヘンリー郡区評議会、ウッド郡委員会、ならびにオハイオ州開発科はこの郡区を「オハイオ州事業地区」に指定し、新しい建造物に対する財産税を投資額や雇用創出に応じて減額できるようにしました。

この区域は農業地域ではありますが、2時間の陸上輸送可能半径に1800万人、1日の輸送可能半径に合衆国全人口の3分の2の人口を擁し、アメリカへの輸入消費財の流通に最適な立地条件を備えているとみなされています。部品や原料を輸入してアメリカやカナダ市場向けに製品を生産する製造業者にとっても、効率の良い立地となります。また特定の事業は外国貿易地帯の資格を得ることもできます。加えて、オハイオ州の農業事業関係者は、輸入コンテナを再利用して大豆やその他の農作物をアジアへ輸出するために、この施設を利用することに関心を示しています。

ウッド郡経済開発委員会はオハイオ私営の非営利団体であり、地域開発の一貫性を維持するため、CSX設備の正門に面した80エーカー (約30万平方メートル) の中枢地区に対しての売買権を取得しました。この敷地は構想された物流及び工業団地造成事業の要となり、これを目的とした事業開発者に随時入手可能です。隣接する土地は主に四世帯の土地所有者が所有権を有しますが、ウッド郡経済開発委員会とウッド郡港湾委員会は、将来の開発事業主が隣接するCSXの生産性と事業可能性を最大限に享受できるインターモーダル物流工業団地の開発を目指し、地域住民と連携して十分な土地を得られるようにするための援助を惜しみません。